

どっぷりキナバル登山7日間

どっぷりキナバル登山7日間プログラム

日付	地名	時間	行程<宿泊地>	食事
1 (土)	日本発 (クアラルンプール) コタキナバル着	午前 夜	✈ 東京(成田)・大阪(関空)発、クアラルンプール乗継ぎ、ボルネオ島コタキナバルへ 🚗 着後、市内ホテルへ <コタキナバル泊>	機 機
2 (日)	コタキナバル発 キアウ村着 発 キナバル公園着	朝 午前 午後	🚗 ホテル発、サンデーマーケット見学 その後、山岳ガイドの多く住むキアウ村(約800m)へ(約2時間) ドゥスン族の生活を垣間見、山菜中心の郷土料理をご馳走になります その後、キナバル公園(1500m)へ(約1時間) 👟 公園内散策など、ご自由にお過ごしください <キナバル山麓泊>	朝 昼 夕
3 (月)	キナバル公園発 登山口発 山小屋着	朝 午後	👟 朝食後、山岳ガイドと合流、公園内循環バスで登山口(1886m)へ 山小屋へ向け登山開始(約6時間) 亜熱帯を思わせる山地林~背丈ほどの木が多くなる高山植生まで楽しめます また、ウツボカズラやジャクナゲなども目にすることができます 山小屋到着(3300m付近) <山小屋泊>	朝 昼 夕
4 (火)	山小屋発 登山頂 山小屋着	02:00頃 午前 午後	👟 起床、山小屋にて軽食 ガイド共にヘッドランプを携行し登山開始(約4時間) 途中、サヤッサヤ小屋(3670m)を経て、ロズスピーク(4095m)へ 登山頂後、山小屋へ戻り朝食(約2時間) その後、ご自由にお過ごしください <山小屋泊>	朝 昼 夕
5 (水)	山小屋発 マシラウルート マシラウ着	早朝 午前 午後	👟 起床、お弁当の朝食を受取り、マシラウへ向け下山(約8時間) マシラウルートは植生豊かな尾根道です 霧に包まれる事の多い雲霧林の中を進み、ランやペゴニアが多く見られるでしょう もう一つの登山口、マシラウネイチャーリゾート(約2000m)に到着 ウツボカズラの群生地を散策し、ウツボカズラの王様ラジャを探します (時間と体力次第です) <マシラウ・ネイチャーリゾート周辺泊>	朝 昼 夕
6 (木)	マシラウ発 ポーリン着 発 コタキナバル着 コタキナバル発 (クアラルンプール)	朝 午前 午後 夜 深夜	🚗 マシラウネイチャーリゾートからポーリンへ(約1時間) 樹上に掛けられた吊橋キャンピウウォークから、熱帯雨林の様子を観察(約1時間)日本軍が掘り起こした温泉で足湯体験 🚗 コタキナバルへ向け出発(約3時間) ~途中、運がよければ世界最大の花ラフレシアが見られるかも~ (見学期別)~ コタキナバル着 ✈ コタキナバル発 マレーシア航空にてクアラルンプール乗継、日本へ <機内泊>	朝 昼 機
7 (金)	日本着	朝	✈ 東京(成田)・大阪(関空)着	機

※航空会社の都合や現地の事情により、一部変更になる場合がございます。

ツアーのポイント

- 山小屋に2泊するので、初心者や体力に自信の無い方も安心です。
- 山岳ガイドの村キアウ、往路は通常ルート、復路は植生豊かな尾根道マシラウルート、ポーリン温泉では、熱帯雨林の木の上に掛けられたキャンピウウォーク(自然観察用の吊橋)と足湯体験し、キナバル山の見所を余すところ無く凝縮した、ボルネオ専門店ならではのツアーです。

旅行代金 2名1室・お1人様あたり

出発日(毎週土曜日発)	旅行代金(お1人様)
4月7日~7月14日(4/28除く)	145,000円
7月21日~7月28日	152,000円
8月4日	154,000円
8月11日	202,000円
8月18日~8月25日	152,000円
9月1日~9月29日	145,000円

※上記料金に別途、国内空港使用料(成田2,540円、関空2,650円)・マレーシア空港使用料1,730円・航空保険超過負担料1,680円・燃油サーチャージ31,520円・YRサーチャージ840円、合計38,310~38,420円が必要です。(3月15日現在) ※1人部屋追加料金¥14,000

〈旅行条件〉●発着地/成田・関西空港 ●利用航空会社: マレーシア航空 ●食事/朝食:5回・昼食:5回・夕食:4回 ●宿泊予定施設/コタキナバル市内:シャングリラダウンタウン又は同等クラスホテル ◎キナバル公園内ロッジ、キナバルヘリテージリゾート&スパ、キナバルバイン、セリンリゾート ◎キナバル山小屋:ラン・ラタ、グンティン・ラガダン、パナールラン、ワラスハット ●最少催行人員/2名 ●添乗員:同行しません。現地人英語スタッフがお世話します



ポーリン・キャンピウ (イメージ)



キアウ村・ドゥスン族の郷土料理 (イメージ)



キアウ村



マシラウルート



ポーリン温泉

コタキナバルとキナバル山を結ぶ幹線道路沿いで、4WDに乗換えます。その先には、谷に下る道と対岸の山の雲間にいくつかの村が見えます。これが、ドゥスン族山岳ガイドの故郷キアウ村です。キナバル山を「魂が宿る山」と崇め、キナバルと共に暮らしてきた彼らの生活を垣間見、素朴だが美味しいと評判の郷土料理を頂きます。

1998年に開通したマシラウルートは、標高2000mのマシラウネイチャーリゾートからラヤンヤン小屋までを結ぶ、アップダウンのある6kmの尾根道です。ツアーでは、下山ルートとして利用します。マシラウルートは、霧に覆われることが多く雲霧林の中を進みます。苔むした幹を持つ多くの木々の間に、ときおり、色鮮やかなラン、ジャクナゲ、ペゴニア、そして食虫植物のウツボカズラが顔を覗かせます。潤いに溢れた道を、花を探検しながらゆっくりと下山しましょう。

キナバル公園の東端に位置するポーリンは標高550mで、熱帯雨林が広がります。ポーリンの意味は、マレー語で「竹」の意、その昔、地元ドゥスン族の人々は「湯気が出て、恐ろしい場所だ」ということで誰も近づかなかったそうです。それを掘り起こし、温泉としたのが旧日本軍です。天然硫黄泉で、登山の疲れを癒しましょう。また、高さ41mの熱帯雨林に掛けられたキャンピウウォーク(吊橋)からの自然観察では、熱帯雨林の立体構造を感じる事ができます。